

JOFIOSAKA Vol.22

2008年(平成20年)8月1日発行 発行者:大阪府釣りインストラクター連絡機構

本部:大阪府東大阪市中小阪1-5-20 tel06-6729-9485 fax06-6729-9457 広報部:大阪市北区天神橋3-8-15 tel06-6358-4414 fax06-6358-4445



巻頭言

暑い夏

大阪の港湾行政を逆に回さないでほしい

来田 仁成 (JOFI大阪代表)

とりわけ暑さの感じられる夏になりました。みなさんいかがお過ごしですか? 実はこの夏の暑さの原因には大きな理由があります。それというのも、私たちがホームグラウンドにしている大阪港の防波堤や埋立地、それに加えて沖の一文字波止までが、大阪市の条例で立ち入り禁止になる気配が濃くなっているからです。

かつて、大阪の海はどこまでも続く葦の湿地帯と、上町台地をめぐる淀川、大和川の水が作り出す水路の景観で知られていました。そこには、太古からチヌ(クロダイ)が住み着き、そこに住む人々の食料として大切に取り扱われていた様子が、記紀の昔から記録されています。

大阪が港として利用されるようになった歴史は、難波の宮のころからですが、天保山の名のとおりかなりな規模で浚渫され、築港が形作られるようになった天保年間(1830年代)から、わずか180年弱に過ぎません。

その間、人工の防波堤(直立護岸)特有の釣り技術として、大阪独特のコスリ釣りが発達し、いまチヌを釣るための別段に精妙な技術として、神戸の備中釣り、横浜の野島釣りと並ぶ落とし込み技術を全国の釣り人にさがけて生み出してきました。

わたしたち大阪の釣り人は、そうした技術を生み出す大阪の風土と、経済界を代表する大阪の港を誇りとして生まれ育ち、釣りを開発し続けるばかりではなく、これも全国にさがけてチヌの稚魚放流を27年にわたって継続してきました。

大阪港をはじめ全国の港湾の釣り場が、人工構造物の管理責任という立場からみて「黙認」の状況下にあるといわれても、ささやかな市民の楽しみを全面的に否定するだけの理由をだれも持つはずがないと信じるままに、相互理解によって融和をはかる以外の方法を考えずにこれまで過ごしてきました。

今回の条例化の背景は、昨年大阪北港で発生した死亡事故で裁判が行われていることによる過剰反応ではないかと思われます。

こうした裁判では過去に、たとえばため池に子供が転落したのは、柵が完備していなかったから、管理者側の責任だとする判例の積み重ねがあるようです。事故を起こされた方やご遺族の痛みは、明日はわが身と十分理解できますが、わたしたち釣り人の側から見た

場合、釣り場での事故は、その釣り場の選定を含め、すべて自分の判断による責任というのは当然です。いわばロックライミングをするのと同じ立場での覚悟が必要でしょう。

釣りインストラクター制度の母体である(社)全日本釣り団体協議会では、平成20年度事業計画の中に、この問題を明確に示し、ライフジャケットの着用運動を推進しています。すなわち事故などによって周りの人々に迷惑をかけないというのが、釣り人が持つべき基本姿勢だと全国的意見の一致をみたからです。

一方で、管理責任を理由に、一方的な立ち入り禁止条例が、これも全国にさがけて大阪でできるとすれば、これは、これまでの相互理解への努力が全く認められることなく、大阪の港湾当局では大阪の港では全長700mの南港魚釣り園だけに釣り人を閉めこむ意思で動き始めたのだと見るほかありません。

それならばと、釣り人の側にも、人工構造物における管理義務の範疇はなにか、地方自治体の財産権とはなにか、さらには、管理とは国民の安全を期すことにあるのではないかなどという、入浜権の時代と同じテンションの主張が強まっています。

さてわたしたちJOFI大阪のとるべき道は、こうした争いへの道でないことは明白です。どうにか相互理解をするための機会作りと、話し合いへの努力は、最後まで続けねばなりません。

大阪市の立ち入り禁止の条例化に先立って、8月中旬から1ヶ月間にわたって大阪市港湾局のパブリックコメント募集があると聞いています。わたしたち釣り人ばかりではなく、広く一般市民にもよびかけて、この問題へのそれぞれの自由な意見をよせることから、話し合いへの道を開いて行きたいと思っています。

みなさんのご協力をお願いします。



2月17日午前10時より「平成19年度釣り人と市民による大阪湾の水質調査報告会」が大阪市内のホテルにて開催されました。

この水質調査は、NPO法人釣り文化協会（JOFI大阪メンバーが主体となって活動しています）が、国土交通省近畿地方整備局との協働により平成17年に試行的に実施、平成18年度は内閣官房都市再生本部・都市再生プロジェクト推進事業として本格的に実施し、平成19年度は大阪湾水質一斉調査に参加する事業として引き継いできたものです。

報告会ではNPO代表・来田仁成より全体の報告、その後各地区の調査員からの報告を行ない、大阪府水産センター主任研究員・鍋島靖信氏からデータ分析と総評を話していただきました。

平成19年度の大阪湾の特徴としては、

- 1) 過去30年間で比較しても非常に水温が高かった
- 2) 台風の直撃がなかったために北東の強い風が吹く日が少なく、硫化水素のたまった層が上層まで上がってくる現象（青潮）はわずかしき観測されなかったものの、貧酸素層ができたことで底層魚のハナ浮き現象が見られた
- 3) 大阪市～泉佐野にかけてのエリアに回遊する小魚が少なく、非常に釣果が少なかった
- 4) 南方系の魚が釣れていた
- 5) 神戸～須磨にかけてのエリアでは釣果は比較的悪くなかった

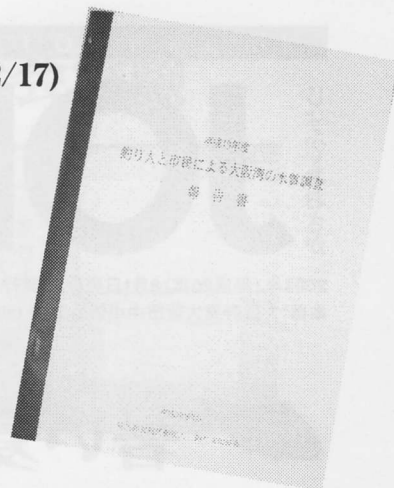
6) 河口近くの湾奥部では雨による影響が大きかった

などが上げられました。また今後の課題として、研修会を開催し、調査データの精度を上げることや異常データが出た場合のネットワークづくりなどが提案されました。

平成19年度は、釣り人だけ

ではなく、樫下先生を中心とした国際環境専門学校のみなさん、また南港野鳥園で調査をしておられる野鳥の会メンバー、高校の野外活動指導員の先生などにも参加していただき、釣り人の活動が一般に広がったことが、大きな一歩になったと思います。

来賓として見えられた水産庁釣り専門官・城崎和義氏、国土交通省海の環境再生センター長・浅倉弘敏氏からも評価していただきました。また、釣り関係の新聞社、日釣振や各メーカーからも参加いただき、これからの釣り人活動の在り方を見ていただいたと思います。（なお、「平成19年度大阪湾水質調査報告書」はJOFI本部および南港魚つり園に若干保管していますのでご入用の方はご連絡ください）



釣り界の新しい動きは、こちらをご覧ください。

<http://www.zenturi-jofi.or.jp>

（社）全日本釣団体協議会のホームページです。外来魚問題や沿岸の釣りなど、釣り行政の動きを日々捕らえて全釣協としての姿勢、釣り人としての対応等についてまとめています。

大阪湾の水質調査や釣り人ボランティアの動きについては、こちらご覧下さい。

<http://www.turibunka.or.jp>



平成20年度JOFI大阪総会 (2/17)

平成20年度の定期総会を、2月17日(日)大阪市内のホテルで、水産庁資源管理部沿岸沖合課釣人専門官の城崎和義氏・大阪府環境農林水産総合研究所水産技術センター主任研究員の鍋島靖信氏・大阪湾見守りネット代表田中正視氏の3名を来賓としてお迎えし、会員出席者34名により開催。委任状提出者70名を合わせ104名(全会員数165)により定期総会は成立しました。

来田代表の挨拶から始まり、議長に副代表である山崎勝彦氏を選出し、議事が開始されました。「第一号議案平成19年度事業報告に関する件」から「第五号議案 運用規定の改廃に関する件」まで全ての議案が承認されました。また決議を求める事項についても、「第一号議案規約改定〔案〕に関する件」から「第五号議案平成

20年度新役員の承認に関する件」まで全ての議案を決議した後、来田代表から新役員支部長等の紹介を行い、総会の議事が全て終了しました。

総会終了後、水産庁資源管理部沿岸沖合課の城崎和義氏・釣人専門官から「釣人の事故対策」と「釣りインストラクターの活動」と題し、これからインストラクターに期待していることと進む方向、また現在水産関係が抱えている問題等の特別講演をいただき、出席会員の一人々が真剣に聞き入っていました。

親睦会は来賓も同席していただき、各支部長から会員の紹介と新年度への抱負、これからの活動について表明すると共に会員相互に意見交換を行いました。(報告:事務局 物部胤三)



ホームページ開設しました! URL:jofiosaka.dip.jp

平成20年1月より、JOFI大阪のホームページを開設しました。これはインターネットに詳しい田隅衛会員に一肌脱いでもらったもので、公認インストラクター制度のことや、JOFI大阪の規約、今までに発行した広報

誌のPDF版などがきちんとまとめられています。これからインストラクター活動をやってみようという興味をもたれる方には最適な案内版となり、また会員相互の交流を図る掲示板としても期待されています。

釣りインストラクター講習・試験 (1/5~6)

1月5~6日、ヒューマンアカデミー大阪校にて、全日本釣り団体協議会による平成19年度の関西地区釣りインストラクター講習会

を実施。JOFI大阪メンバーが多数講師として参加しました。

フィッシングショーOSAKA (2/2~3)

大阪釣具協同組合のご依頼を受け例年通り大阪府釣り団体協議会の一員としてフィッシングショーに「釣り教室協力」で参加をし

ました。JOFI広報誌も少し配布し公認釣りインストラクター活動の周知普及に努めました。



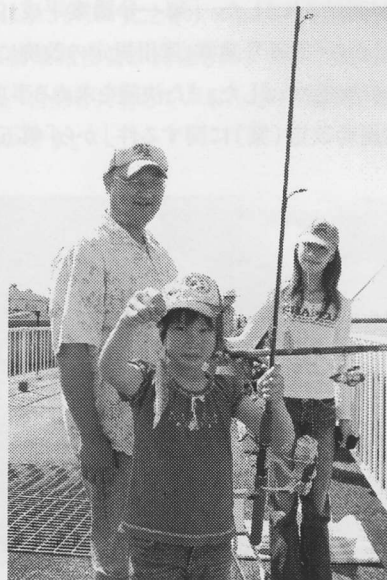
石川大清掃に参加して (3/2)

3月2日曜日、堺・南河内支部は第25回石川大清掃の富田林市石川グランド会場に参加しました。当支部6名、他支部からも5名協力していただき11名となりました。当日は春を感じる天気となり、9時～10時半までごみを回収し、心地よい汗をかきました。参加する度に生活ごみものの処分が自然を汚す大きな要因であることを実感します。この活動は「自然を守り、緑と太陽に恵まれた住み良いまちを



つくりましょう」という富田林市の市民憲章のもとに、昭和59年に石川を美しくする市民運動協議会が発足し、毎年3月の第一日曜日に行なわれています。来年も一人でも多くの方が清掃活動に参加されることを願っています。（報告：堺・南河内支部・清水保雄）

G.W.親子釣り入門教室 (5/3～6)



ゴールデンウィークの4日間、大阪南港・魚釣り園にて「GW親子り入門教室」を開催。教室参加者は4日間で338人と大盛況でした。お手伝いいただいた皆さんお疲れ様でした。

魚釣り園では今年度も毎日曜日に私たちインストラクターが巡回指導をして、初心者を対象にアドバイスさせてもらっていますが、今回の教室では貸し竿と餌（シラサエビ）を用意し、釣りが全く初めての方でも参加できるようにしたことと、この時期に1匹を釣る

方法を的確に指導させてもらえたと思います。来場者の中には、今の時期全く釣れないサビキ仕掛けをだまされて？ 買ってきた人も意外に多くおられて、困ったことです。

釣りを長く続けて もらうためには最初のアドバイスが一番大切だと、活きエビで底を探る釣りをやってもらいました。この時期ですから、釣れたとしてもアブラメの新子、カレイの子、コウイカ、ガシラなどですが、親子で楽しい時間を楽しんでいただけたようです。）

水質調査員研修会 (5/4)



5月4日曜日午後1時から「平成20年度大阪湾水質調査員研修会」を南港魚釣り園NPO室にて開催しました。

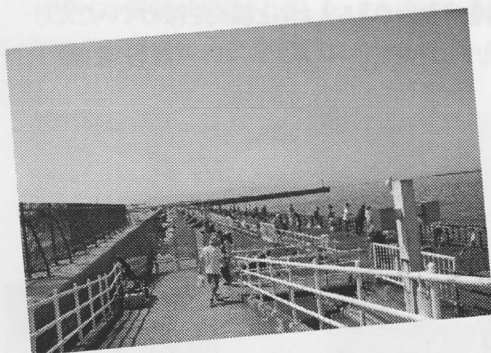
今回は昨年度の反省を踏まえて、「器具の点検」「各人による即定誤差の確認」「カラー見本の変更」など、よりわかりやすく精度の高い調査をするための研修です。

昨年から引き続いての調査員がほとんどですが、今年からのメンバーも3名あり、この研修会を機に新しいスタートを切り、今年度の調査を開始しました。



GWジュニア水質調査の日 (5/5)

5月5日祝日、子どもの日に合わせて「ジュニア水質調査の日」を南港魚釣り園にて開催。10時にテント前に集合したメンバーは親子10人。この日の講師は来田代表以下、釣りインストラクターがおこないますので、大阪湾の水質と釣りとの関係がどのようになっているのかなど、釣り好きな方にはとても楽しい話ではなかったかと思います。海の色を見て餌の種類がわかるとか、塩分濃度と魚のタナの関係など、鍋島先生の受け売りですが、自分たちが確かめてきた結果をお話しできました。小さい頃から大阪湾の水質に興味を持ってくれる釣り人が増えてくれればと願っています。



淀川わんどクリーン大作戦 (7/21)

今年で22回目を迎える淀川わんどクリーン大作戦。主催は国交省近畿地整淀川河川事務所、JOFI大阪も協力団体として毎年参加しています。今回は12名のメンバーで淀川わんど周りの水辺を中心に清掃。ペットボトル、沈んだビニー

ル袋や空き缶などを大量ゲットしました。真夏の暑〜い一日でしたが、清掃のあとに、橋の下の日陰で仲間と寝転がっているのは最高にいい気持ちでしたネ。

(報告:北河内支部長)



報告11 大阪湾生き物一斉調査(6/21)

大阪湾環境再生連絡会(国交省・神戸港湾空港技術調査事務所が事務局をしています)には、釣り文化協会をはじめ、西宮自然保護協会、西淀自然文化協会ほかたくさんの市民団体が参加し、行政や各研究施設、大学などの機関と協働で大阪湾の環境再生に向けた取り組みを提案してきました。

「大阪湾生き物一斉調査」はそういった仲間が一斉にうごき、大阪湾の水環境を把握しようという試みです。昨年秋に神崎川河口で試行的に実施しましたが、今回が本番です。

調査地点は 大阪湾15か所、参加団体は11団体、参加人数は470名 に上りました。

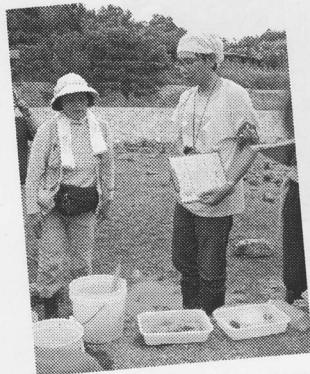
私たち釣りインストラクター&水質調査員グループは、神崎川河口(矢倉海岸)、大阪南港野鳥園、高師浜(浜寺公園)、茶屋川河

口、せんなん里海公園人工磯の6か所に分かれて23人が参加。各地点で生物調査とあわせて水質調査をおこないました。

釣り人とは、毎日のように漁獲調査をしている人たちですが、それを報告したり分析をしたりはしたことが今までほとんどありません。今回教えられたことは、生物の分布や変化を知ることの大切さです。もし、多くの市民から魚も含めて生物の量や種類を報告するシステムができれば、大阪湾の自然海岸を残すことや、生き物にとって重要な水質とはなにか、そういうことを示すことができるのだと思いました。

9月6日には結果報告会が開催されますので、こちらの方もぜひご参加ください。自然を共有している人たちと親交を深めていただければありがたいです。

(報告:萱間)



矢倉海岸にて



野鳥園にて

チドリの卵

野鳥園の生き物一斉調査 (報告:来田仁成)

ふだんは入ることのできない南港野鳥園の干潟に入って、生き物たちを観察しました。

写真のようにチドリの卵もありました。潮が引くにしたがって荻の根元にカニの巣穴が無数にあらわれました。

ヒライソガニ、ケフサインソガニがかけまわり、ハクセンシオマネキのダンスを見ることができました。

浅い水中では、ヨコエビ、イガイ、タテジマフジツボ、マガキ、イボニシ、イシマキガイ、などがみつかりました。

参加者の高校生が、野鳥園では新発見というアメフラシの仲間を見つけ大喜びでした。

ただ、アサリの死骸が多かったことと、砂の直下から黒い泥土があらわれDO値の低さを痛感しました。

真夏に北風が吹いたあと、貧酸素でこの生き物たちのほとんどが死滅する運命にあることを思えば憮然とせずにはいられません。

それでも生き物たちは干潟に適応して元気に生き伸びていました。コンクリートの直立護岸ではこうはいかないでしょう。

太古からの難波潟、ちぬのうみのたたずまいを想像しながら貴重な一日を過ごしました。

ご案内 大阪湾生き物一斉調査 結果発表会 (9/6)

6月21日に実施しました「大阪湾生き物一斉調査」の結果発表会を下記にて開催いたします。当日は自然史博物館の研究者の先生方、各団体のみなさんが見えになり、ポスターセッションや展示、各団体の発表があります。また今回の調査を総合的に見ていただいた上での、山西先生と鍋島先生による講演もあり、大変なことになること請け合いです。どうぞご家族を誘ってご来場ください(無料です)。

◎大阪湾生き物一斉調査 結果発表会

日時:9月6日土曜日、12時半～17時

場所:大阪市立中央会館ホール(大阪市中央区島之内2-12-31 地下鉄「長堀 橋」下車、7号出口から堺筋を南へ150m、周防町通りを東へ150m)

※出席希望のJOFI関係の方は、萱間 (tel090-1902-2833・fax06-6358-4445)まで、8/8までにご連絡ください。



第2回 水質調査員研修会・ジュニア調査員研修会 (8/9)

NPO 法人釣り文化協会では8月9日土曜日、大阪南港魚釣り園・NPO控室にて、新規募集者へおよびジュニア調査員の研修を兼ねて「第2回水質調査員研修会」を実施します。

◎講師:鍋島靖信先生(大阪府環境農林水産総合研究所主任研究員)

◎時間: 午前9時30分集合、12時頃まで

◎講習内容:

- 1)大阪湾の水質と生物について
- 2)水質調査器の取扱い説明、計測の注意点
- 3)実地講習

◎募集人員: 定点調査員10名程度、ジュニア調査員10名程度(保護者同行をお願いします)

◎調査用具について: 当協会が用意した調査キットをお使いください(無料貸出)

今更言うまでもないのですが大阪の釣りインストラクター連絡機構の独自性は、釣り文化協会というNPOを組織し、行政や各市民団体と連携を取りながら、従来の釣りインストラクターの枠にとらわれない様々な活動を実施していることです。今年で4年目になる大阪湾水質調査についても、「市民による環境モニタリングシステム構築」という重要な役割を釣り人がつくれたわけです。

から、この実績は今後の釣り人活動を変えたと言えるでしょう。どうか皆さん、私たちが工夫して作ってきた調査システムを、もっと多くの釣り人の仲間に使っていただけるように、これからの活動をお願いいたします。これは、私たちが作りだした、世界でここしかない環境保全システムの一つなのですから。

＜水質調査員研修会参加申込方法＞

参加希望者は、

氏名/住所/生年月日/自宅・携帯・FAX番号/メールアドレス (ジュニアの場合は保護者の氏名・住所・連絡先も)をお書きの上、

NPO法人釣り文化協会事務局

5300041 大阪市北区天神橋3-8-15

Tel06-6358-4414 fax06-6358-4445

mail=jimukyoku@turibunka.or.jp

上記へお申し込みください。

水質調査はできないけれど、研修だけでも受講したいという方も歓迎します(ただし定員がありますのでお早めに!)



今年もやるで〜! 大阪湾53PickUp! (11/9)

NPO釣り文化協会とNPO水辺基盤協会が合同で開催する大阪湾の清掃活動「大阪湾53PickUp!」は今年3年目を迎えます!

これまでは協力各団体が3か所に分かれて実施してきましたが、3年目は、各団体が一堂に会して やってみよう! ということで、ゴミの現状が問われている1か所に集結する計画です。

また、大阪湾でアマ藻を植えるなど環境保全の活動を続けているダイバー組織「CAN」さんの力をお借りして、海底清掃も行ないます。

釣りインストラクターチーム、ダイバーチーム、トップウォーターチーム、湾岸シーバスチームと、他にも一般参加者が多数集まれる場所で、たくさんのごみを集め、また、ミニ釣り大会やティーパーティーなどなど、いろんなイベントを楽しみたいと思っています。

日程は11月9日日曜日と決めています、参加者が多数の関係でまだ場所が確定していません。泉南地区周辺で調整中ですので、釣り文化協会・水辺基盤協会のホームページでの発表をお待ちください。

(実行委員長・萱間修)



今年もやるで〜!



舞洲における環境学習と魚釣りの社会実験

(9/15, 10/26, 3/15or29)



今年は2年目の「舞洲社会実験」。条例で釣り禁止となっている場所を解除してもらうために大阪市港湾局と連携して行なう社会実験です。場所は昨年と同じ舞洲緑地にある「北港プロムナード(遊歩道)」で、夏・秋・春の3シーズンの調査を行ない、釣り場として適しているかどうかをもう一度確認したいということです。実施についてはNPO釣り文化協会が窓口になり、各団体の協力を要請して行ないますが、秋のシーズンはファミリーフィッシングでも大丈夫と思いますが、夏と春は条件が合わない大変厳しいですので、腕達者な方々のご協力をどうかよろしくお願いいたします。釣ってください!

<舞洲社会実験・実施概要(予定)>

名 称 舞洲シーサイドプロムナード釣り大会(舞洲における環境学習と魚釣りの社会実験)

第1回 9月15日祝日 5~9時「釣獲調査釣り大会」(担当:釣り文化協会)

第2回 10月26日日曜日 6~10時「ファミリー海釣り大会」(担当:日釣振大阪府支部)

第3回 3月15or29日日曜日 6~10時「釣獲調査釣り大会」(担当:釣り文化協会)

開催場所 舞洲緑地シーサイドプロムナード

主催 NPO法人 釣り文化協会/財団法人 日本釣振興会大阪府支部/社団法人 全日本釣り団体協議会

共催 大阪市港湾局

参加費 無料

特記事項 環境調査としてすべての施行日で水質調査と調査の講習会を実施します。

講習に参加された方には目視調査キットを差し上げます。

賞 釣獲調査釣り大会=チヌの部、スズキの部、青物の部、根魚の部、他魚の部各賞あります。

ファミリー釣り大会=長モノを除く対象魚の2匹長寸にて、各部門豪華賞品多数。

参加申込み 氏名・年齢・住所・電話番号を書いて、

第1回/第3回=釣り文化協会事務局 (fax06-6358-4445)、

第2回=日釣振大阪府支部 (fax06-6531-0988)

まで申し込んでください。

当日参加も可能ですが、満員の場合はお断りすることがあります。

